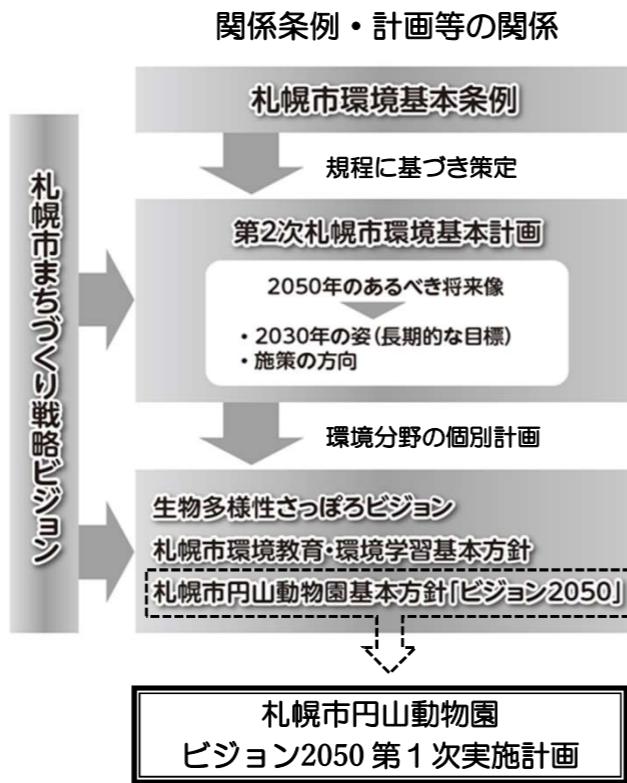


# 【概要版】札幌市円山動物園ビジョン2050 第1次実施計画（案）

## I ビジョン2050第1次実施計画の策定にあたって

円山動物園は、2007年3月に札幌市円山動物園基本構想を策定し、これに基づく基本計画を定め具体的な事業を行ってきた。そうした中、2015年にマレーグマ死亡事案を起こし、動物管理センターからの改善勧告を受けることになり、その後、改善計画に沿って獣医師機能の強化や動物専門員職の新設、開園時間や休園日の見直しを行ってきた。一方、国内外の動物園を取り巻く環境や役割が大きく変わってきており、そうした変化に対応するため、2019年3月に基本構想に替わる新たな基本方針として札幌市円山動物園基本方針ビジョン2050を策定した。

今回策定する「札幌市円山動物園ビジョン2050 第1次実施計画」は、ビジョン2050の基本理念「命をつなぎ未来を想い心を育む動物園」を着実に実現するため、動物福祉の向上を根幹に「保全」「教育」「調査・研究」「リ・クリエーション（再創造）」の取組を重点的に推し進めるための計画であり、経営に関する具体的な取組についても示しながら、持続可能な動物園運営を目指す。



	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	～		
円山動物園 基本方針	基本構想										ビジョン2050：～2050年										
円山動物園 実施計画	基本計画					基本計画(改訂版)					第1次実施計画										
札幌市中長期実施計画	札幌新まちづくり計画	第2次札幌新まちづくり計画			第3次札幌新まちづくり計画			まちづくり戦略ビジョンアクションプラン2015			まちづくり戦略ビジョンアクションプラン2019										

## II 円山動物園のこれまでの取組と今後の展開

### 1 動物飼育について

#### <動物飼育のこれまでの取組>

- 身体的特徴を見せる「分類学的展示」から生息地ごとの動物の展示「動物地理学展示（アジアゾーン・アフリカゾーン）」への展示方法の移行
  - 動物の生活環境充実のための環境エンリッチメントの実施
  - 動物の連続死亡事案が発生したため、改めて動物福祉の重要性を認識し、そのための取組を推進
  - コウモリの捕獲調査やニホンザリガニの生息状況調査など、保全の取組の実施
  - 集客を主としたイベントから動物のことを伝えるイベントに移行
- ※環境エンリッチメントとは：動物本来の行動を引き出すために、飼育に関して行う工夫のこと。

#### <今後の動物飼育の展開>

- 動物種ごとに動物福祉の自己評価を行い、新たな情報と技術による飼育方法、健康管理・治療、動物の生活の質を高める工夫の探求と取入れ
- 今後、飼育展示していく動物種の考え方（「推進種」「継続種」「断念種」）に基づく動物飼育の推進
- ビジョン2050に基づく4つの重点項目「保全」「教育」「調査・研究」「リ・クリエーション」に基づく事業や取組の展開

### 2 施設整備について

#### <施設整備のこれまでの取組>

- 類人猿館の屋外放飼場改修（2008.3）、エゾシカ・オオカミ舎（2008.3）、エゾヒグマ館（2010.3）の新築、は虫類・両生類館（2011.3）の改築を実施
- 熱帯動物館に替わるアジアゾーン（2012.12）、アフリカゾーン（2016.8）の新設
- 2017年度にホッキョクグマ館新設（海外連携を視野に入れた設計）
- 2018年度にゾウ舎新設（生息環境に近づけた環境エンリッチメントを取り入れた施設）

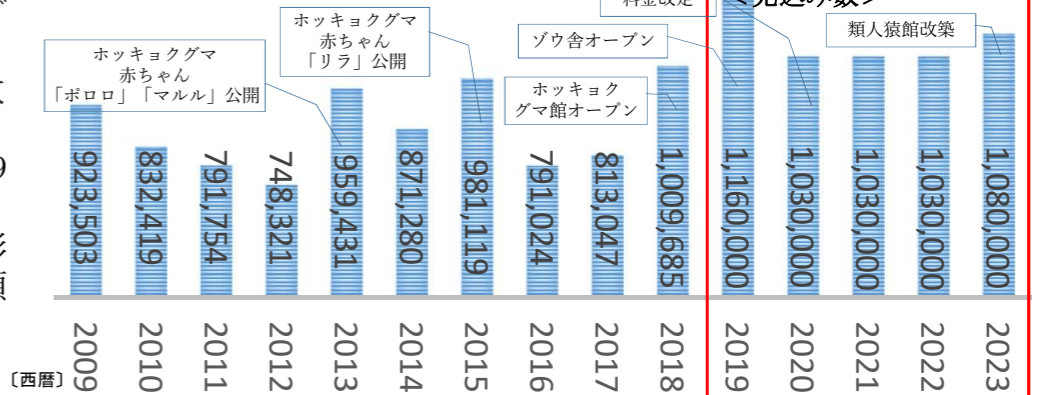
#### <今後の施設整備の展開>

- これからの施設整備では、動物福祉の確保と充実を念頭にビジョン2050の4つの項目の役割を果たせる空間づくりを推進
- 動物種ごとの特性を踏まえ、必要な安全対策を図り、飼育動物に快適な環境を提供し、より教育効果が高く来園者にとって魅力的な展示となるような工夫の実施
- 動物舎改築では、限られた予算の中で、法的条件や動物と来園者の安全確保、飼育上の使いやすさなど特殊性を考慮し、動物福祉の充実に配慮した検討の推進
- 老朽化した動物舎の長寿命化のため、優先順位の高いものから計画的に修繕を実施

### 3 来園者数の推移

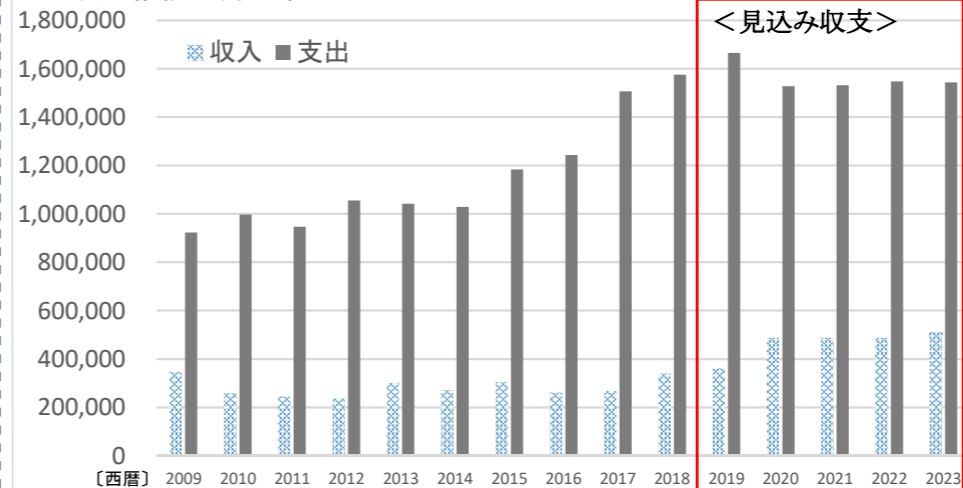
2018年度は、ホッキョクグマ館の影響により来園者数が増加し、39年ぶりに来園者数が100万人を超えた。今後の見込みとして、2019年度はゾウ舎の影響による増加、2020年度は料金改定の影響による減少、2023年度は類人猿館の改築による増要素を見込んだ。

<来園者数の推移と今後の見込み>



### 4 収支状況

<収支の推移と今後の見込み>



光熱水費や飼料代などの運営経費が増加傾向にあり、大規模施設の新設による維持管理経費の増大や施設の老朽化による改修費用の増加等から、支出に占める入園料収入の割合の低下が見込まれる。このような状況を踏まえ、動物福祉に配慮しながら、安定的な運営を維持していくため、より適切な受益者負担となるように入園料の見直しを行う。

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
収入	346,543	257,405	245,001	235,025	300,461	270,133	302,061	260,019	266,392	338,459	360,946	486,663	486,663	486,663	509,460
支出	922,503	996,256	946,014	1,055,311	1,042,057	1,028,454	1,183,169	1,242,262	1,505,994	1,575,059	1,665,184	1,526,984	1,531,370	1,547,810	1,543,453
収支差	▲575,960	▲738,851	▲701,013	▲820,286	▲741,596	▲758,321	▲881,108	▲982,243	▲1,239,602	▲1,236,600	▲1,304,238	▲1,040,321	▲1,044,707	▲1,061,147	▲1,033,993
入園料	274,493	214,254	213,890	192,336	252,143	229,135	267,568	223,603	237,030	304,891	329,295	455,938	455,938	455,938	478,735
支出における入園料の割合	29.8%	21.5%	22.6%	18.2%	24.2%	22.3%	22.6%	18.0%	15.7%	19.4%	19.8%	29.9%	29.8%	29.5%	31.0%



### III 具体的な事業と取組の展開

**「保全」を推進する事業・取組**

**【数値目標】**・希少種や飼育展示していく動物種の考え方に基づく推進種の繁殖種数  
2019～2023年度まで 10種（期間累計）  
・生息域内保全活動の実施回数 2018年度11回 → 2019～2023年度までの単年度平均20回

主な事業名・取組名	事業内容
ホッキョクグマ保全推進事業【新規】	近年動物園の役割として、単に希少な野生動物を飼育するだけでなく、実際の生息地における保全活動や生息地保全にかかる教育活動に積極的に関わることが求められていることに鑑み、ホッキョクグマをモデルケースとして、生息地における調査研究・保全活動に携わる機関との連携を通じて、生息域内での保全、国際的な枠組みでの飼育下個体群の保全に貢献する。
アジアゾウ飼育技術向上・繁殖推進事業【継続】	ゾウの健康管理及び飼育職員の安全確保のため、海外のゾウ専門家による職員への技術研修を実施する。
類人猿館改築事業【継続】	老朽化が著しい類人猿館について、オランウータンの生態と動物福祉に配慮して、十分な広さを有し、かつ立体的で本来の行動を引き出す施設に改築することで、動物園の役割である種の保全や環境教育等の機能面の充実を図る。
種の保存推進事業【継続】	国内の動物園、水族館及び保全活動組織と連携し、絶滅危惧種の域外保全、個体群保全の機能強化を図り、国内、特に北海道に生息する希少動物の保護等に係る調査研究を実施するとともに、取組を情報発信する。

**「教育」を推進する事業・取組**

**【数値目標】**・園内における解説やガイド実施数 2018年度 1,277回 → 2023年度 1,350回  
・総合学習等の受入れ人数 2018年度 8,968人 → 2023年度 10,000人

主な事業名・取組名	事業内容
動物たちの魅力をより深く伝える解説の実施【継続】	動物の能力や生態、生息域で発生している問題などをより深く伝えるため、現在「みんなのドキドキ体験」として、解説や体験メニュー等を実施している。職員間での内容の振り返りや評価の実施により、解説の充実を図る。
円山動物園教育推進事業【継続】	動物園の飼育動物に関する情報発信や学習プログラムを提供することで、市民に動物の生息域で起こっている環境問題について知ってもらい、環境保全の重要性に関する市民の理解を推進する。
団体向け教育プログラムの充実と受入れ方法の見直し【継続】	これまで実施してきた飼料庫ガイドや次世代エネルギー施設ガイドなどのプログラムに加えて、年代や目的にあった、これまでよりも多くの人数が受けられるような利用しやすい教育プログラムを開発し、実施する。また、教育委員会等と連携し、団体向け教育プログラムの受入れ拡充が可能な体制を構築するとともに、総合学習に必要な事前学習教材等の開発についても検討を進める。
来園者の学びをサポートする掲示物・情報発信の充実【継続】	来園者の幅広い「知りたい」というニーズに応え、多くの来園者がより楽しく、より深く生き物や環境問題などについて学ぶことができるように、各動物舎における掲示物やホームページなどでの解説を拡充する。また、教育プログラムや園内ガイドで活用できるような教材を作成する内部研修を実施し、よりわかりやすい解説に必要な教材の充実を図る。

**「調査・研究」を推進する事業・取組**

**【数値目標】**・学会等で調査・研究内容を発表した回数 2018年度3回 → 2019年度か2023年度までの単年度平均5回  
・調査・研究内容の情報発信 2018年度0回 → 2020年度から年5回程度

主な事業名・取組名	事業内容
動物園における調査研究と情報発信の推進【レベルアップ】	野生生物の保全や、飼育動物の科学的な管理に資するため、動物園の基本的な役割の一つである調査研究を推進する。また、その成果を適切に情報発信し、社会への還元を目指す。

**「リ・クリエイション」を推進する事業・取組**

**【数値目標】**・来園者の満足度 2018年度 -% → 毎年向上  
・冬季来園者数（11月～3月） 2018年度 254,505人 → 2023年度 300,000人

主な事業名・取組名	事業内容
円山動物園おもてなし事業【レベルアップ】	国内外の観光客誘客及び来園者の観覧環境充実のため、リーフレット、動物解説板及び各案内表示板等の多言語化、Wi-Fi環境の整備、HPの閲覧のしやすさの向上を図る。
園内関係者が一体となったおもてなし・環境保全活動の取組【新規】	来園者の声やご意見に対応したおもてなしや、プラスチックごみ・食品ロスの削減など環境保全活動を、動物園内の売店・食堂・委託事業者等の関係者全体で取り組む。
動物園までのアクセス向上【継続】	JR札幌駅や地下鉄からのシャトルバスや路線バスなどの運行について、バス事業者等と連携した取り組みを行うと共に、地下鉄円山公園駅から動物園までの誘導サインを充実させ公共交通機関の利用促進を図る。また、臨時駐車場の拡充などを行い、マイカー利用者の渋滞緩和策を強化していく。

**取組の根幹【動物福祉】を推進する事業と取組**

**【数値目標】**・ハズバンドリートレーニング実施種 2018年度 19種 → 2023年度 35種  
・動物福祉評価 2018年度 未実施 → 2023年度 実施完了

主な事業名・取組名	事業内容
動物園動物福祉向上【レベルアップ】	動物福祉の向上を目的として、健康の基礎となる栄養管理を中心に見直しを進める。これまでの知見を踏まえつつ、最新の分析・見直しを行うほか、動物の多様な行動を引き出すために、環境エンリッチメントの実施対象を広げるとともに、評価、再調整手法の検討を行う。
動物福祉評価【新規】	動物福祉の向上が世界の動物園水族館における極めて重要な懸案事項となっており、世界動物園水族館協会(WAZA)が加盟地域団体等に対して、2023年までに動物福祉にかかる事前評価を完了することを求めていることに鑑み、動物園に普遍的に求められる動物福祉水準を踏まえたガイドラインを策定し、自主評価を実施する。
動物園条例制定【新規】	動物を生き生きとした状態で観覧することを通して、生物多様性の保全の重要性や環境について学習する場を将来にわたり市民に提供していくため、動物園の意義や役割など、普遍的な姿を定める条例の制定について検討する。

※ハズバンドリートレーニングとは：動物の健康維持のために必要な行為を、動物自らが進んで行ってくれるよう学んでもらうこと。

**基本理念を実現するための基盤を支える事業と取組**

主な事業名・取組名	事業内容
飼育展示していく動物種の推進【新規】	ビジョン2050の飼育展示していく動物種の考え方に基づき、円山動物園で飼育展示する動物を分類する。また、その中の推進種については、国内外の飼育個体群の動向を注視し、飼育園館と連携して積極的に繁殖に取り組む。
園内施設維持管理事業【継続】	動物園運営にかかる改善勧告に基づいて毎年実施している施設総点検等で、老朽化や不具合、部分的な用途変更等により改修が必要と判断された動物舎等施設について、動物の福祉を念頭に、動物の高齢化対策も含めて飼育環境における安全安心に配慮した修繕を行う。また植栽や園路などについても、より一層安全で快適な空間となるよう整備を行う。
入園料収入の見直し【新規】	持続可能な経営に向けて、入園料等の収入や支出経費の見込みを踏まえ、他園館の状況や年間パスポートの利用実態などを調査し、入園料の見直しを行う。

### IV 第1次実施計画の推進にあたって

円山動物園基本方針ビジョン2050に基づき、本実施計画は、次の5つの観点から推進する。

- 数値目標による進行管理
- 来園者のニーズ把握
- 人材育成とチームワークの向上
- 持続可能な経営
- 市民参加の推進